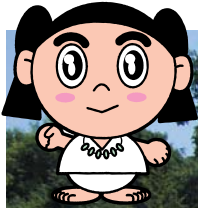


# ひろしまの遺跡

第101号



瀬戸越南古墳墳丘の葺石検出状況(上・右)



せとごえみなみ  
**瀬戸越南古墳** (三次市向江田町) みよしむこうえたまち

調査期間 6月25日～8月10日

瀬戸越南古墳は、国兼川が馬洗川と合流するため大きく西に流れを変える地点から東側の小丘陵の先端部に立地しています。

古墳は、長さ2.1m、幅0.5mの箱式石棺を埋葬施設とする径約13mの円墳で、背面は東西12m、幅6m、深さ0.8mの溝によって区画されています。高さは溝の底から約1mで、墳丘には葺石が施されていることがわかりましたが、西側ではみつかりませんでした。急な斜面であることから流失したと思われます。石材は、墳丘の裾部分に一辺約30cmの不

定形の石材を丁寧に並べたのちに上部に積んでいました。特に墳丘の南側部分だけが二段に葺かれており、南側に広がる水田からの眺望を意識した築造と思われます。遺物は表土から弥生中期の塩町式土器片、溝から5世紀後半から6世紀頃の須恵器甕片、土師器甕片・碗が出土しています。

石棺の底と墳丘裾から多くの鉄滓が出土していることから、鉄生産に関わりがあった人の墓の可能性が考えられます。(地図①)



# 発掘調査速報

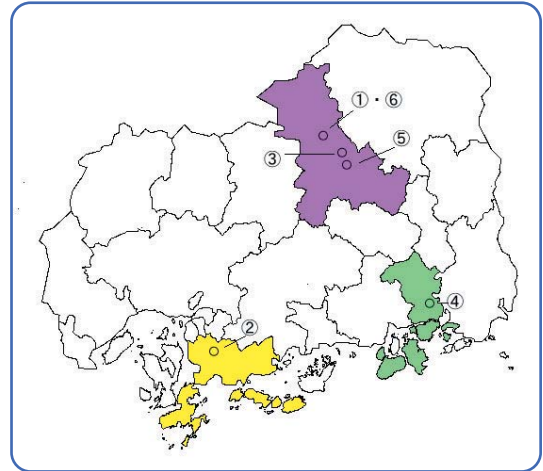


## じょうひらやま 城平山城跡 (呉市焼山町)

調査期間4月16日～5月25日

城平山城跡は、二河川の西側丘陵の尾根上に立地しています。調査の結果、平坦面4か所と土坑1基などを検出しました。このうち、一番下の平坦面と土坑は、出土遺物から近世以降のものと考えられますが、ほかの平坦面は時期不明です。

本城跡は交通の要衝に位置し、見晴らしがよい場所に立地していますが、平坦面はいずれも小規模で防御機能に乏しいため、臨時的な施設といえます。(地図②)



城平山城跡近景(南から)

## わかみさこ 若見迫遺跡 (三次市三良坂町)

調査期間4月16日～5月25日

若見迫遺跡は、三次市三良坂町の馬洗川と上下川が合流する付近から、南に広がる水田の南端に位置しています。調査の結果、調査区の西側で柱穴群や土坑7基、自然の溝1条などを検出し、この溝を東端とする集落の一部を確認しました。

遺構の確認面上からは、須恵器や土師器、木製品、平瓦片、鉛をインゴットに加工した製品等が出土しています。遺物の年代は、平安時代前期(9世紀代)のもので、遺構面直上の土内に遺物や自然木が含まれ、この集落が、災害等で一時期に埋没した可能性が考えられます。

(地図③)



若見迫遺跡作業風景

## えのじょう 家ノ城跡 (尾道市木ノ庄町)

調査期間4月16日～6月15日

家ノ城跡は、木梨川西岸の独立丘陵上にあり、頂部郭と北西尾根を中心に調査を実施しました。

昨年度は城の正面にあたる頂部郭の東半部を調査し、建物跡をはじめ多くの遺構や遺物が出土しました。今回調査した西半部は城の裏側にあたります。ブドウ畑に伴う溝や穴により、遺構はかなり破壊されていましたが、土坑9基などの遺構を検出しました。出土遺物は、14世紀代の土師質土器が中心です。



家ノ城跡近景(北から)



銅製懸仏と銅銭6枚等が出土した土坑もあり、墓壇の可能性も考えられます。

郭の北西側に位置する幅6～8m、最深部で深さ約2mの堀切は、全体を掘り切るのではなく、中央部を土橋状に高く残し、通路として使用していたことが明らかになりました。（地図④）

かたのなかやま みぎたに  
**片野中山第9～12号古墳・右谷遺跡**  
みよししきさちょう  
 （三次市吉舎町）

調査期間4月16日～8月8日

片野中山古墳群は矢井川の支流右谷川と片野川に挟まれた低丘陵にあります。古墳群は15基で構成され、今回の調査ではこの内の第9号から第12号までの4基を調査しました。調査の結果、第9号古墳では有孔砥石を副葬した土坑墓を、第10号古墳では鉄製刀子を副葬した土坑墓を、第12号古墳では土坑墓2基を検出しました。これらの古墳は出土した遺物から概ね5世紀末から6世紀の前半頃と推定でき、この地域での横穴石室を埋葬施設とする直前の様子うかがえます。

右谷遺跡は片野中山第9号～第12号古墳の占地する尾根と小さな谷を一つ隔てた東側尾根の斜面にあります。調査の結果、竪穴住居跡1軒、掘立柱建物跡1棟、土坑4基を検出しました。竪穴住居跡は方形で、新旧の2時期があり、新しい時期に住居跡を拡張しています。掘立柱建物跡は2間×2間で斜面を削平して建てています。時期は、古墳時代終末～奈良時代頃（7世紀前半から8世紀前半）です。（地図⑤）

みやもと みよししむこうえたまち  
**宮の本第20～26号古墳**  
 （三次市向江田町）

調査期間4月16日～

径30mの第24号古墳は墳頂部に竪穴式石室1基・箱式石棺2基を設けています。墳丘斜面に葺石が施され、その中間には100本程度の円筒埴輪が樹立されていました。この古墳を取り巻くように6基の小古墳がつくられ、その多くは箱式石棺を埋葬施設としていますが、第20号古墳は南に開口する横穴式石室を構築しています。7基の古墳は4世紀末から7世紀前半にかけて築造されたと考えられます。（地図⑥）



片野中山第12号古墳調査風景（北から）



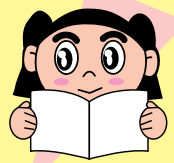
右谷遺跡SB1調査風景（西から）



上  
宮の本第24号古墳埋葬施設（西から）

左  
同古墳葺石（東から）

# 考古学



## アラカルト38

集落遺跡の発掘調査では住居跡や土坑から壺・甕・鉢などの土器や砥石・石鏃などの石製品,あるいは鉄器・木製品のように色々な遺物が出土します。これらの遺物は,その用途から当時の生活を窺うことができる資料であると同時に遺跡の年代を決定する資料でもあります。こうした出土遺物の中には,何に使われたのか不明なものがいくつかみられます。ミニチュアの土器や土製模造品,壺・甕の底や口縁部に穴が穿っている土器なども用途が不明瞭な遺物といえます。このような遺物の中に山陰型甑形土器(図2の①・②)と呼ばれる土器があります。

山陰型甑形土器は,弥生時代の終末期頃の集落遺跡から,これまでに石川県,滋賀県,大阪府,奈良県,京都府,兵庫県,鳥取県,島根県,岡山県,広島県,愛媛県,福岡県などから出土しています。最も多く出土しているのは鳥取県,次いで島根県であることから分布の中心は山陰地方となります。土器に底がない甑と形態が似ていることと併せて,山陰型甑形土器と呼ばれています。

山陰型甑形土器の大半は住居跡の床面上,住居跡内の土坑・柱穴内から出土していますが,使用していた状態のままで出土した例が無いため,1)甑(蒸し器)として使用した。2)口の広いほうを下にして器台(土器を置く台)として使用した。3)口の広いほうを下にして,把手に紐を通し炉の上につるし,煙突として使用した。の3説が多数を占めています。山陰型甑形土器は大きくて重量があるため(②の通常の甑形土器と比べるとその大きさがわかると思います。),持

## なぞの大型<sup>こしき</sup>甑形土器

ち運ぶことも容易でなく,日常的に使用していたとは考えられません。遺跡でみつかった全ての住居跡から出土しているのではなく,限られた住居跡からの出土例が多いことから,集落内で何らかの行事(祭事)を行う際に共同使用したのではないかという説もあり,山陰型甑形土器が出土する地域は同じ行事(祭事)が行われていたとも考えられます。また,水蒸気を利用した医療行為を行ったという考えもあります。しかし,どの意見も決定的ではありません。

広島県では図2と表1のとおり,現在まで35遺跡から63点が出土しています。分布図をみると江の川流域,太田川流域(広島湾岸域),芦田川流域の三流域を中心に出土していることがわかります

①は庄原市の尾崎遺跡から出土したもので,山陰で出土するものとほぼ同じ形態です。江の川流域と芦田川流域で出土したものは,①とよく似ています。③は広島市の大町七九谷B地点遺跡から出土したものです。①と比べて口が広く,下部に把手がないものもあります。太田川流域のものはこのタイプが多く出土しています。



図1 甑形土器①・③実測図(1/16)

①尾崎遺跡 ②布掛遺跡 ③大町七九谷B地点遺跡

他府県の出土例も含め広島県内で出土した山陰型甑形土器は、山陰系土器と共に大部分が弥生時代の終末期頃の集落から出土しており、出土した地域は山陰の強い影響下にあったと考えられます。岡山県では中国山地以外で、古代吉備の中心地に近い総社市でもみつかっています。広島県では、芦田川の下流域にまで及んでいないことがうかがえます。

古墳時代に入ると、山陰型甑形土器を含む山陰系の土器は徐々に姿をみるものがなくなり、畿内の影響を受けた土器の出土が増え始め、全国的に地域色の強い土器はみられなくなります。

このように、地域限定・期間限定の土器でも、広い範囲でみることによって当時の複雑な社会情勢の最前線を垣間みることができます。(山田繁樹)

参考文献

桑原隆博『所謂「山陰型甑形土器」についての覚書—広島県出土を中心に— 研究輯録V (財)広島県埋蔵文化財調査センター 1995  
 長川加奈子『山陰型甑形土器』神女大史学 第18号 神戸女子大大学史学会 2001



近森遺跡山陰型甑形土器出土状態(世羅郡世羅町)

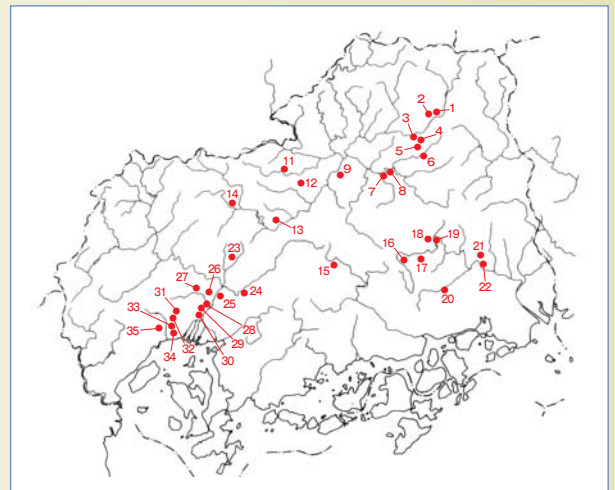


図2 山陰型甑形土器が出土した遺跡の分布図

番号	遺跡名	所在地	点数	出土遺構
1	迫田山遺跡	庄原市川西町	1	住居跡
2	布掛遺跡	庄原市川西町	5	住居跡
3	妙見山遺跡	庄原市東本町	1	住居跡
4	永宗遺跡	庄原市新庄町	1	住居跡
5	和田原D地点遺跡	庄原市新庄町	3	住居跡・土坑
6	尾崎遺跡	庄原市峰田町	4	住居跡
7	土森遺跡	三次市三良坂町	1	住居跡
8	油免遺跡	三次市三良坂町	1	住居跡
9	原田遺跡	三次市青河町	1	住居跡
10	出土地不明	三次市内	1	
11	向原遺跡	安芸高田市高宮町	1	住居跡
12	寸志名遺跡	安芸高田市高宮町	1	住居跡
13	明官地廃寺跡	安芸高田市吉田町	1	整地面
14	焼け遺跡	山県郡北広島町	2	住居跡・包含層
15	中屋遺跡B地点	東広島市豊栄町	3	住居跡
16	鳥井木遺跡	世羅郡世羅町	1	包含層
17	土居丸遺跡	世羅郡世羅町	1	住居跡内土坑
18	近森遺跡	世羅郡世羅町	2	住居跡

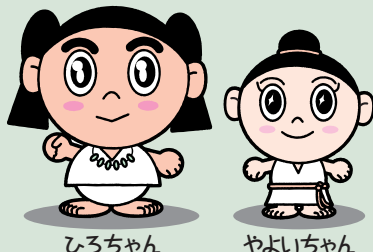
番号	遺跡名	所在地	点数	出土遺構
19	龍王山2号遺跡	世羅郡世羅町	1	土坑
20	曾川1号遺跡(G地区)	尾道市御調町	2	土坑
21	府中市市街地	府中市元町	1	包含層
22	ソジ遺跡	府中市元町	3	包含層
23	トンガ坊遺跡	広島市安佐北区可部町	6	住居跡
24	上深川北遺跡	広島市安佐北区上深川町	1	住居跡内土坑
25	城前遺跡	広島市安佐北区落合南	4	住居跡・貯蔵穴
26	毘沙門台遺跡	広島市安佐南区毘沙門台東	2	住居跡・不明
27	鯛之迫遺跡	広島市安佐南区安東	2	住居跡・包含層
28	大町七九谷B地点遺跡	広島市安佐南区大町	2	住居跡
29	長う子遺跡	広島市安佐南区祇園町	1	住居跡
30	芳ヶ谷遺跡	広島市安佐南区祇園町	1	住居跡
31	串山城遺跡	広島市佐伯区五日市町	1	住居跡
32	黒谷遺跡	広島市佐伯区五日市町	1	住居跡
33	平尾遺跡	広島市佐伯区五日市町	2	包含層
34	小林A地点遺跡	広島市佐伯区五日市町	1	住居跡
35	白禿遺跡	広島市佐伯区五日市町	1	包含層

計63点

表1 山陰型甑形土器出土遺跡一覧表

新春  
放談

# 飛鳥美人なにこ想ふ 開催決定!



ひろちゃん

やよいちゃん

県内で活動する埋蔵文化財関係4法人共同企画による講演会を、今年度も開催します。

今回は、移築保存が行われている飛鳥高松塚古墳壁画に関連して、古代の服飾について学習院女子大学教授増田美子氏に基調講演をしていただきます。

ぜひ、おでかけください!

- 日程等 日 時 平成20年1月12日(土) 11:00~17:00  
場 所 アステールプラザ 中ホール(広島市中区加古町4番17号)  
その他 入場料無料

- 内 容 基調講演  
「ニューファッションへの道-高松塚古墳壁画の服飾を中心として-」 学習院女子大学教授 増田 美子氏  
シンポジウム「ひろしまの装・飾・美をさぐる」 司会 広島大学名誉教授 河瀬 正利氏  
その他、事例報告や出土品の展示などを行います。

- 主 催 (財)広島県教育事業団, (財)広島市文化財団,  
(財)東広島市教育文化振興事業団, (財)安芸高田市地域振興事業団

えんぼう!

まがり

## 曲第2号古墳(庄原市口和町)で短甲(古墳時代のよろい)出土

たんこう



曲第2号古墳は、直径約13m、高さ1.5mの円墳です。墳頂部の埋葬施設から刀や短刀とともに短甲が出土しました。県内では11例目となります。写真は、出土した状態で、前側が上に、背中側が下になっています。胸の真ん中で左右をあわせるようになっているのがわかります。古墳が築造されたのは5世紀の終わり頃と思われます。

(財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室報  
ひろしまの遺跡 第101号

発行日 平成19(2007)年11月16日  
編 集 (財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室  
〒733-0036 広島市西区観音新町四丁目8番49号  
TEL (082) 295-5751  
ホームページ <http://www.harc.or.jp>  
E-mail [maibun@harc.or.jp](mailto:maibun@harc.or.jp)

発 行 (財)広島県教育事業団  
印 刷 (株)インバルスコーポレーション